



2月になってもまだまだ寒い。ポーポキは、友だちと一緒に楽しく遊びます。
みなさんも楽しく遊べるといいね。

Popoki's Hot News!



もうすぐ！ポーポキのミニ平和映画祭！

3月28日 14:00～17:00！予定しておいてね！



ポーポキのピース・ブック3！

ポーポキのピース・ブックシリーズの3冊目、

『ポーポキ、元気って、なに色?』は、お近くの本屋さん、出版社エピック (<https://bookway.jp/epic/>)、神戸 YMCA、ポーポキ・ピース・プロジェクトから入手できます。ご注文、および感想をお待ちしています。



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのきそにゃんから届いた平和。

「平和ってなんだろう。その質問の答えを探しながらカナダへやってきました。そこでは日々新しい出会いがあり、国も文化も言葉も異なる仲間と過ごす刺激的で笑いの絶えない大学生活。そんな時ふと気づきました。国も文化も言葉も違う人たちと同じ話題で笑いあえるこの瞬間が『平和』なんだと。

その時を共有し『面白い、楽しい』という同じ感情を持ったからこそ、笑いあえる。国の違いも、言葉の違いも、文化の違いもそこでは関係ありません。ただ同じ環境で過ごす仲間として互いの感情を理解しあえるということは、とても素敵で幸せなことだと日々感じながら、今日もいろんな国の仲間と笑いあっています。私の見つけた平和の一言、それは『国境のない笑顔』です。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



いつもご協力、ありがとうございます！

『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』

(エピック 2012) はお陰様で好評です。ぜひ広めていただきたいと思います！

*神戸 YMCA でも販売していますよ！ 本については、

<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html> をご参照ください。



ポーポキ友情物語 at 神戸市役所市民ギャラリー

有パンにゃん

先月のポーポキ通信でも案内させてもらいましたが、先月 1 月 15 日（木）～ 21 日（水）の 7 日間、神戸で開かれた「子どもたちへのメッセージ運動展」にて、私たちはその一角でポーポキ友情物語の展示をさせてもらいました。見に来て下さった皆様、ありがとうございました！

「子どもたちへのメッセージ運動」は子どもたちに命の尊さと震災の教訓を語り継ぐことを目的に 2006 年から始まりました。そして、阪神・淡路大震災が起こってからちょうど 20 年目の今年は、集められたメッセージと震災の関連のある書道、折り鶴等の作品、生まれたての赤ちゃんの写真、そして当時の資料が展示されていました。私たちは奥の大きなスペースでポーポキの布を展示させてもらいました。市民の方々のすばらしいメッセージや作品と一緒に、布にこめられた思いを見に来て下さった方々に伝えることができたと思っています。



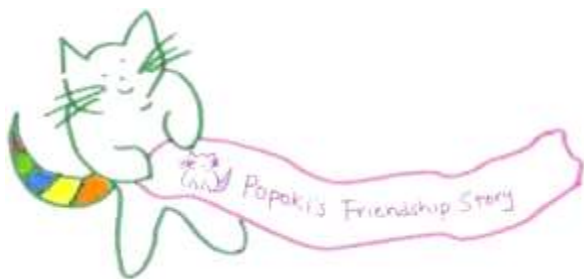
この「子どもたちへのメッセージ運動展」は震災後に生まれた子どもが 20 歳になる今年が最後でした。もちろん、それで被災をした方々、そして新しく大人になった方々の活動が終わったわけではないと思います。それでも、20 年間震災と向き合い続けた市民の方々、とりあえずお疲れさまでした。これからも、ポーポキとそのお友だちも皆さんと支え合いながらいろいろなことをしていきたいと思っています。



2015.1.17 神戸東遊園地

写真：さとにゃん





* ポーポキのインタビュー *

ろにゃん

アンジェラ・トーマスさん

今回はフィジーで久しぶりに再会できたゼミ生、アンジェラ・トーマスさんをインタビューしました。アンジェラさんは今、太平洋フォーラム事務局に勤めています。



ろにゃん(以降、ろ):「ポーポキ通信」のためにインタビューができて、とてもうれしいです。日本からフィジーに帰って、しっかりと自分の人生を作っているね。それをみて、うれしくなるし、誇りに思います。神戸大学にいたのはいつ頃だったかしら。

あ: 2001 年 10 月から 2004 年 4 月までです。もう 10 年以上前!

ろ: それは信じられないね。そうすると、震災の約 6 年後に神戸に来たのですね。

あ: そうですね。入学ガイダンスときに、担当の先生は「地震を心配しなくても良い。80 年毎のサイクルに起こるので、今神戸は日本の中でもっとも安全な場所です。」その時、私にとって、そしてほかの多くの途上国出身の入学生にとって、日本についたばかりのときでした。新しいものや音、そして人の多いことになれようと一生懸命でした。その発言にはちょっと圧倒されました。

ろ: 日本は地震が多いです。なにも言わない方が良かったですか?

あ: いいえ、そういう意味ではありません。でも、たとえばどうすれば安全に暮らせるかとかを言えばよかった。1995 年に震災が起こったときは記憶しているけど、地球の反対側の出来事でした。フィジーは当時、テレビが導入されて間もない頃だったので、多くのニュースや番組はありませんでした。今はもちろん、リアルタイムで見ることができますが。でも、当時は遠い国でしかも 6 年も経っていた。入学式のとき、だれも震災のことを考えていなかったのでは?

ろ: 神戸のまちはどうでしたか? なにか地震の後を観たり感じたりしましたか?

あ: そうですね。空地や駐車所が多かったです。ガレキはなかったと思うけど、建設現場はたくさんありました。JICA の近くで博物館は建設中でした。もっとも驚いたのは、港の近くで崩れた栈橋と壁を見たとき。壁の位置で段差を確認できたからです。私にとって、その段差、つまりその具体的な証拠は、なによりも震災の規模を表せたのです。

ろ: それを見るために港へ行ったの? 実は、記憶を風化させないために今もそこはおいでありますよ。

あ: 実は、その近くの公園にたくさんのホームレスの人たちがいると聞いたので、友だちと一緒に見に行っていたの。日本ではじめてホームレスの人を見たとき、本当にショックを受けました。日本にホームレスの人がいることを受け入れるのにかなり時間がかかってしまいました。青いシートと段ボールだけで生活している姿をみたときも驚きました。どうして生存できるのかしら、と。フィジーはほとんど寒くならないでしょう。帰りに港の方を通りました。

ろ: 2011 年の震災が起こったとき、どこにいましたか？

あ: トンガで会議に出席していました。夜に津波警報が出たので、バスに乘せられて丘の上に行きました。バスの中で寝たね。そして、朝になったら、目の前に海がありました！安全を確保するほど高い場所はないわけですね。その日、海は本当におかしかった。なんといえば良いでしょうか。普通だと、潮の満ち引きにはとても時間がかかるでしょう。その日は、数分で満ち引きしていて、水面が上がったり下がったりしていた。キリバスという国も、高台がなく、スタジアムが最も高いところです。本当に大変です。友だちによると、いざというときにすべての子どもに救命ベストを着せて 2 個のバケツを持たせて無事を祈る、と。このようなところに行くと、自分はどれだけ恵まれているかを確認できるから良いですね。

ろ: フィジーはどうでしょうか。地震や災害は心配されていますか？

あ: 20～30 年前、マングローブだった場所を開発しているのが問題です。リソーとのデナラウ島はその例の一つですね。開発したところは、川の流れを邪魔するので、雨が多いと、洪水が起こります。

ろ: ナンディ周辺に「防災完備村」(disaster ready village)という看板はみたけど、災害計画はありますか？

あ: あるというけど、洪水がある度にたくさんの人はホームレスになってしまいます。JICA に相談して、川の流れを人工的に変えようとしていると聞いたけど。

ろ: 話は留学のことにもどりますが、日本のように民族的な(外見的な)違いが少ない国に住んでいてどうでしたか？

あ: とても面白かったです。フィジーはとても多様性が高い国です。みんなが混ざっている！フィジーの異なる地域とか島とか、違う場所やバックグラウンド…。ここでは、私は平均的な大きさですけど、日本人はあまりにも小さい！おかしかったです。私がエキゾチックという目で見られました。アフリカの友だちがいたけど、彼の家族はアフリカから遊びにきました。どこへ行っても、人は見たりコメントしたりしました。最初のうちはおもしろかったけど、だんだんしんどくなってきました。

ろ: 日本で過ごした時間は、その後の人生に役立ちましたか？

あ: 教育はより良い仕事や人生へのパスポートだと言われます。私の場合はそうだったのかな。良い、しかも面白い仕事を得て、自分、子ども、そして家族を養うことができます。教育、そして仕事を通じて、常に新しい経験や考え方に出会うことができます。

ろ: あなたにとって、その意義は？

あ: あらたな立場や感覚があるということがわかってきました。神戸では国際会館に住んでいたので世界中から学生がきていました。もっともよかったのは食べ物でしたが、みんなの考え方が異なっていたことも良かったです。息子にもそういう体験をしてほしいし、異なる考え方を理解できるようになってほしいです。「違う」は必ずしも「悪い」とはかぎらないことを学んでほしいです。学校に行ってもいいけど、最終的にメカニックになってほしい。私の車を直すためだけではなく、世界のどこへ行っても仕事を得ることができるからです。

ろ: 息子さんについて教えてください。彼は三才でとっても元気！お名前は？

あ: マロ' エハニシ。「愛に囲まれている」という意味。叔父が付けた名前です。子どもがいますとすべてが変わります！私自身そして子どもの安全や心身の健康を意識するし、行動に注意します。

ろ: 平和についての考え方も変わりました？

あ: 安心というか、子どもは私の心の平和です。彼と離れているとき、もっとも悪いことを考えてしまいます。虐待があるのを知っているの、彼を一人にしません。私の安心は、子どもの安全にかかっています。そして彼の機嫌(笑)。平和、安全、そして死についての考えが変わったかもしれないね。自分にできることは限られているので、宗教の意味が大きくなりました。前より感謝を感じる。小さなときから教会に行っていたけど、昔は正と悪のバランスばかりを考えていました。今は違います。大人になって、財政面とか生命保険をかけるとかじゃなくて、生き方ですね。子どもは、やがてなる大人のデッサンのようなものですね。成長を見るのがすばらしい。



ろ: お仕事ですが、ガバナンスに関係していますね。それだったら、安全と安心について考えることはあるでしょう。

あ: ある程度はね。たとえば、ソロモン諸島で仕事をすることがあります。そこは交通手段やインフラ、コミュニケーションは難しいので、都市部と田舎とのギャップが大きいです。

でも、それは内容によります。文化は進化し変化するものだと思います。もちろん文化の回復や習慣・伝統を残すことは大切ですが、それでも文化は静止するものではない。今は変化がむしろ激しすぎるかもしれないが、家父長制などいくつかの側面はあまり変わらない。だから万遍なく変化するわけではない。たとえば、ポルノはどこにでもあります。だから NGO が大切ですね。女性の NGO はがんばっているし尊敬するけど、性的暴力に関していえば、男性にメッセージを数世代にわたって伝えてもらわないといけない。最近、性暴力を犯す人の平均年齢は下がってきたと読みました。原因は女性を物として扱うポルノの普及によるそうです。人はそれを読んで、セックスの手本にしてしまう。家ではそういう話をしないので、なお悪い。昔は息子だったら性暴力を心配しなくても良いと言われたが、今は女の子も男の子もその対象になります。守りすぎと手放すとのバランスをとらなければならないね。

ろ: あなたにとっての「安心」を教えてくださいませんか？

あ: 不安があってはじめて「安心」がわかるかもしれない。

ろ: たとえば、私にとって、太陽がさしていると安心します。

あ: 明かりですね。そして、身の回りが見えることです。暗いところで周りが見えず聞こえずだったらとても不安です。

ろ: アンジェラさん、ありがとうございました。そして、ポーポキ友情物語の絵もありがとう！



ろにゃんとポーポキの放浪の旅～マーシャル諸島編(2)

たくさんたくさんのすてきな出会いのなかで、ここで取り上げるものを決めるのに苦労して選びました。今回も前回に続いて、核実験とポーポキ友情物語活動を中心に書かせていただきます。

まずは、非常に驚いたことを一つ紹介しましょう。右の写真は、マジュロの中心部にある建物に貼ってあった看板です。アメリカ合衆国エネルギーがマーシャル諸島で放射能(セジウムのみ)の全身測定を行う事務所です。エネルギー省は検査をローレンスリバモア研究所に委託し、訓練を受けたマーシャル人のテクニシャンが希望者の測定をします。ちょっと時間があつたので入ってみました、「15 分かかるけど良かったらどうぞ」と誘われたので、検査をしました。終わったあと、データは研究所に送られますが、本人にも渡します。しかし、治療はしません。私の測定結果は体内セジウム0でしたが、プルトニウムなどの他の放射性物質は検査に含まれていません。「値



が高い人はいますか」と聞いたら、「たまにね。北部の環礁の人だけど。」つまり、核実験が行われた周辺の人です。汚染地に近いところで測定事務所が 2 か所にあります。マジュロは実験場から遠くはなれていることもあって、測定を希望する人はあまり多くなさそうです。それでも考えさせられました。たとえば、飯舘村、福島市内、東京都内に同じような測定所があつたら…。



マーシャル諸島カレッジの図書館の一室に「Nuclear Institute」があります。その担当のメーリー・シルク(Mary Silk)さんに話をう

かがいました。核実験のことを多くの人に知ってもらうための努力や教育の現状など、学び深い時間を過ごすことができました。そして、宿題ももらいました！マーシャル諸島の小学校教育では核実験のことをとりあげないそうです。小学生にわかりやすいお話を描いてほしい、と言われました。早速、下書きを描いてみました。そのうちにみなさんに紹介できそうです。また、私がメーリーさんをお願いしたこともあります。彼女のお母様が日本時代のことや日本語を覚えているとのことで、紹介していただきました。



太平洋の地図を広げて、よく見てください。日本、パラオ、マリアナ諸島、そしてマーシャル諸島の位置関係を確認できますか。日本の委任統治領の中心がパラオでした。マーシャル諸島は委任統治領に含まれていたが、日本本土をはじめ、沖縄やパラオなどから遠く離れていたのも、もともと日本人はそれほど多くいたわけではありません。戦争のときも、ほかに比べて爆撃などの被害が少なかったです。それでも、メーリーさんのお母様、カペレ・イサベラ・シルク(Kapele Isabella Silk)さんは、戦争の恐ろしさを記憶しています。穴を掘って、爆撃機が近づいたら穴に入った、と教えてくれました。実際に爆弾が落とされることが少なかったそうですが、落とされるかどうかはわからないので、日常生活を「普通」におくりながら絶えず飛行機の音に注意していたそうです。だれか担当を決めて、見張りをしてもらうこともあったと言われました。闇の中で逃げたこと、日本人が捕虜をとらないで捕まった人をすべて撃ち殺したこと、食べ物が少なくなったこと、戦争のときは本当に苦労したと思います。アメリカと日本は戦争していることは見てわかっていたそうですが、戦争をしていた理由についてはだれも説明してくれなかった、と。当たり前のことかもしれませんが、巻き込まれた者はなぜ戦争をしているかはわからない。それだと一層こわいでしょう。このことに気づいたことは、私にとって今回の旅の大きな発見でした。戦争の理由がわかってもちろんこわいですが、なにもわからないまま爆弾が落ちてくるのはもっと怖いような気がします。最後にシルク一家に「安心」などを布に描いていただきました。祭日だったのに、私のために時間をとり、しかも苦しい話をしてくださり、本当にありがとうございました！



ポーポキの布は、マーシャル諸島でどんどんいっぱいになりました。過去のことだけではなく、今後への希望についても描いてもらうことができました。それはジャンボ・アーツ(Jambo Arts)のみなさんとジャンボ・アーツ・ジュニャー(Jambo Arts Junior)のみなさんによる絵です。後者はコープ学校の先生が放課後に教室で開催することになっており、小中学生が中心です。『ポーポキ友情物語』を見せながら東日本大震災の話をしてから子どもたちに「帰れない」人にわけてあげたいものを描いてもらいました。子どもたちの多くは日本に関心があり、真剣に話を聞いてくれました。そして、一生懸命に描いてくれました。日本や他の国のみなさんがこの布をみると、その気持ちはきつと伝わると思います。Jambo juniors のみなさん、

ありがとうございました！

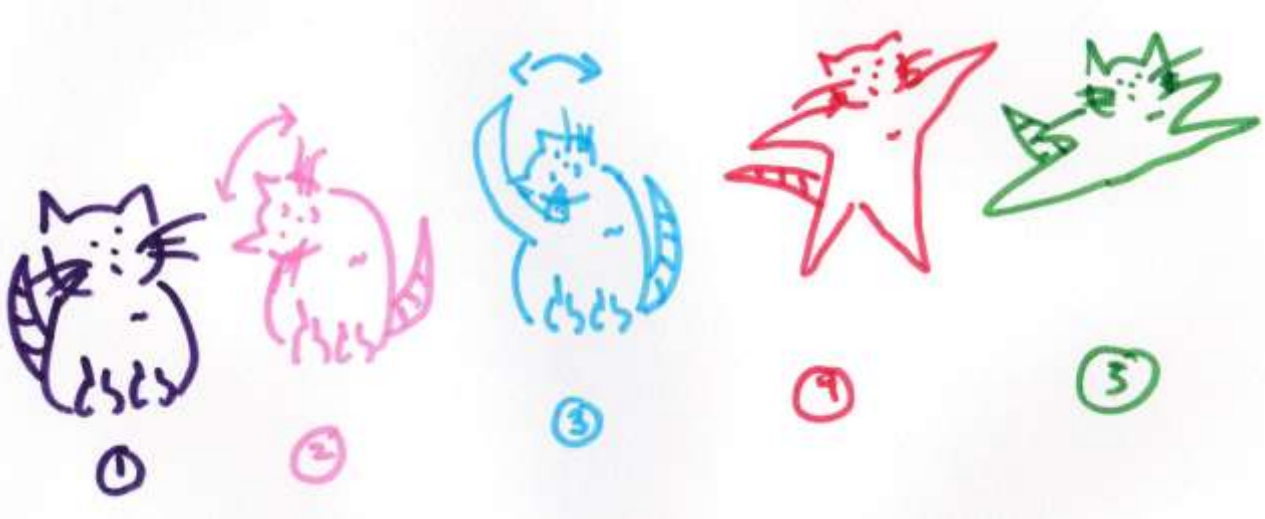


学校を後にして、今度は大人のジャンボ・アーツのミーティングに参加しました。展示の準備など、課題が多い中ポーポキのために時間を割いてくださり、絵も描いた人もいらっしゃいました。みなさん、ありがとうございました！

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 81

今月のテーマは、ストレッチ！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう
 2. 次は、力をぬいてから、頭をやさしく右へ。そして左へ。
 3. 今度は、手を使って、頭を優しく引っばって、首をのばしましょう。右の後、左へ。
 4. 最後は立って、手をひろげながら大きくにストレッチ！できる方へ首を少しうしろへのばしてみてください。
 5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポー会 月 日() 19:00～ 神戸 YMCA (新神戸 OPA 2 階)

2015年2月24日 兵庫医療大学で「健康と平和」ワークショップ。12:50～13:20。アドレド大学の看護学生。参加希望者はさとにゃんへご連絡ください。

2015年2月26日～3月2日 ポーポキin大槌町

2015年3月14日～18日 ポーポキ at 第三回国連防災世界会議 仙台

2015年3月28日 ポーポキのミニ平和映画祭
13:30～16:30 神戸YWCA 4階



Popoki in the News

ポーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60 メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peace? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing”(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『「ポーポキ、平和って、なにに色？」の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑤(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なにに色？ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なにに色？』『私のいち押し』奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて~人間と、ねこと、そして自分と~」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なにに色？ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなにに色？」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなにに色？」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか？」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組 CH の 6CH をクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは？」Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」2008.10.8. 10 面





私にとってのポーポキ

谷口太郎

こんにちは！最近はとても寒いので、ポーポキと一緒にず〜っとコタツで丸くなっていたいなと思っている、たろうにゃんこと谷口太郎です。今回は、コタツに入りながら、私にとってのポーポキをお話しさせていただきます。

私にとって、ポーポキは「ふかくふか〜く考えさせてくれる存在」であり「世界との繋がりを感じさせてくれる存在」でもあります。

～考えさせてくれる存在～



ポーポキは私に簡単なようでとても難しい問いを投げかけてくれます。例えば、『『平和』って何？』『『平和』って何色？』『『平和』はだれのもの？』というような問いかけです。これらの問いに対して、私は簡単に答えを出すことができません。もしも、この問いが「あなたが幸福であるためには？」という問いならば少しは答えやすくなるかもしれません（もちろんこの問題も難しいのだけれど...）。

しかし、「平和」について問われると難易度は高くなります。仮に私が「幸せ」になったとして、それは「平和」な状態なのかと聞かれたら、そうとは言い切れません。そもそも「平和」とは誰について語っているのでしょうか…。う〜ん。

なぜ「平和」は難しいのか考えてみました。一つには「平和」の捉え方が十人十色だからではないでしょうか。例えば、アフリカに住むライオンと日本に住む猫とでは「平和」の定義は一緒にならないかもしれません。敵対する A 町の猫軍団と B 町の猫軍団でも捉え方は真反対かもしれませんし、A 町の犬軍団にとっても「平和」は違ったものになるかもしれません。たった一つの言葉の捉え方が、人によっていくつもいくつもあるから、「平和」は難しいという側面があると思います。しかし、多面的な捉え方があるということが逆に他の誰かとの繋がりを意識させてくれることもあります。



～私とみんなを繋いでくれるポーポキ～



ポーポキに『平和』とは何か」と問われることで、私は世界中にバラバラに存在している「平和」たちに思いを馳せるようになりました。そして、それぞれ異なった形の「平和」を望むものたちの事を想像するようになりました。

それぞれにとっての「平和」はバラバラに存在しています。そこにポーポキがやってきて、『平和』ってなに？」と大きな問いを皆に投げかける。みんなは自分たちにとっての「平和」をポーポキに伝えていき、ポー

ポキはみんなの答えを、受けとめてくれます。

私はポーポキが受け取った各々にとっての「平和」を覗かせてもらいます。すると、アフリカのライオンにとっての平和と日本の猫にとっての「平和」がこうも違うのは何故なのだろう？**A**町の猫と**B**町の猫は、なぜ違う意見を持つようになったのだろう？みんなどんな生き方をしてきたのだろう？と想像が膨らんでゆきます。みんなの顔やご両親の顔まで想像することもあります。

その瞬間、私は何故かコタツにいながらも世界中の誰かと少しだけ繋がった気がするのです。ポーポキはそんな風にして私と世界を繋げてくれている存在なのです。

ありがとうポーポキ。
これからもよろしくね！



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011 年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を 2012 年 1 月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!